

No.	市町村名	捕獲の課題	捕獲個体処理の課題	県に対する要望
1	千葉市	農業) 箱わなの貸し出しをしているが、近年の被害増加に伴い、十分な箱わな基数が確保されていない点。 (生活) 直近で捕獲数が急激に増加している (H29: 16頭→H30: 46頭→R1: 37頭→R2: 33頭 (6月末)) / 都市部における猟友会に担い手の確保 / 野生獣管理事業補助金申請のためのしっぽ切断等の業務負担の軽減	(生活) 市原射撃場が遠く、業務負担が大きい/殺処分施設については住民の理解を得ることが難しく市町村が新規に設置することが困難である	(農業) 捕獲個体の受け入れ場所増設 (生活) 県害虫防除協同組合との民間との提携によるアライグマの捕獲・引き取りに関する仕組みづくり/県内での殺処分場所の増/野生獣管理事業補助金を受給している市町村に対するわな貸出の実施/ハクビシンに関する対応の県内統一/県農林水産部と環境生活部の連携
2	市原市	小型獣用の箱わなが壊れやすい。	電気での止め刺しをするのに、箱わなのメッキが通電の妨げになる。	
3	市川市	捕獲業務委託必要経費の削減 捕獲担当部署職員数の削減 増加傾向にあり、対応に苦慮している	当市より処分場である千葉県射撃場まで距離があり、時間がかかること。 増加傾向にあり、対応に苦慮している	近隣市町村への処分場の新規設置 箱わなの貸出、返却場所を各地域振興事務所内に設置 捕獲に積極的でない近隣市への捕獲業務の指導の強化
4	野田市	生息数に対し、捕獲数が追いついていない。	殺処分を行う業者が市内になく、近隣市の業者まで持ち込む必要がある。 業者まで運搬する手間に加え、脱走のリスク、業務委託に係る費用等が課題。	
5	柏市	近年、捕獲頭数が急激に伸びており、市職員ので直接対応では他業務に支障が出る程度となってきた。このため今後は業者委託の実施が検討課題となっている。(環境政策課) 捕獲時の有効なエサの種類を教えてください。(農政課)	【千葉県アライグマ防除実施計画】7防除の方法(1)によると、県は原則的に捕獲個体の処分を実施するとあり、(4)によると捕獲地から処分地までの個体の運搬・持ち帰り及び焼却処理は市町村が実施するものとある。しかし、県管理の処分地は市原市内にある射撃場1カ所であり、高速道路を使うと片道2,450円の料金がかかり、一般道だと片道2時間30分の時間を要する。これは非現実的と言わざるを得ず、この負担を全て市町村が追わなければならないのは問題である。	年に一度の破損箱ワナ(県より借用)の交換及び新規借用の際、千葉県射撃場(市原市)まで行かずとも実施できる方法をご検討いただきたい。
6	流山市	近年市内での目撃情報が増加しているため、わなを仕掛けている最中は毎日見回りが必要となり、業務が負担になってきています。	近年捕獲個体数が増加傾向にあり、捕獲するたび市原にある射撃場(片道3~4時間)まで持参することが困難となってきました。(特に今年度は2週間に1回程度のペースで捕獲されており、その都度、箱わなを搭載できるトラックを運転できる職員2人体制で1日ばかりで従事しているため、他の業務に影響が出てきています。)	わなの見回り及び運搬についての業務軽減策を検討していただきたい。 例)・わなが閉まると自動で連絡が来るような通知システム・装置の貸し出し ・見回りや処分等の業務を業者委託し、その費用について県で補助 ・市原の処分場まで持参しなくてもよい方法の検討(地域ごとに処分等を行っている業者と県が契約し、その業者に持ち込めるようにしていただく等)
7	我孫子市	目撃情報と捕獲数が比例していないため、有効的なエサやワナ設置方法について、各市町村の事例等を含めご教授いただきたい。また、箱ワナを壊すアライグマ、箱ワナに入らない大きさのアライグマが増えているため、対策を検討していただきたい。	・捕獲するたび射撃場への運搬は時間も予算もかかるため、県射撃場以外での殺処分案を検討していただきたい。	・捕獲器の受け渡しを県射撃場以外の場所を希望している。(県から借用中の箱わな3基中2基が昨年より破損しているが、射撃場に行く予定がないため、交換できない)
8	佐倉市	・6月~8月は特にわなの貸し出し要望が多く、わなの数が不足しやすい ・空き家に住み着いている場合、わなを近隣の家に設置するしかない	・処分場所が限られる。また、処分に時間がかかる ・「貸出わな」と形状の異なる「市販わな」で捕獲された場合、炭酸ガスによる殺処分箱に収納できないため、処分が難しい	「1件1わな」では全て防除できないため、もっと多くのわなが必要
9	八街市	アライグマのみならずハクビシン等有害鳥獣による要作物被害が被害調査の数字以上に増えてきており、捕獲による個体数調整の必要性は増しているが、現在の市職員の人数では対応が難しい。	現状の装備・施設の能力に限りがあるため、簡単に捕獲圧の強化に踏み出せない。	既存の補助事業は対策協議会の設置が前提のものが多く、協議会設置に向けた地域での話し合いが難しい状況ではなかなか事業に乗ることができない。設置の前段階で出来ることもしくは設置するための取り組みを支援する事業があれば良い。
10	印西市	例年ほぼ同数の捕獲数のため、大幅には捕獲数が増加していない。	捕獲・回収業務と殺処分業務で委託先が分かれている。	他市町村のアライグマ捕獲状況や捕獲方法を知りたい。
11	旭市	被害の集計が困難である(被害の程度、原因等) 殺処分するまでの間、捕獲した個体を保管しておく場所の確保が困難である	殺処分するための設備(炭酸ガスによる処分)がない エッグトラップの使用を検討しているが、捕獲後止め差しするまでのノウハウがない	殺処分できる設備を県内に増加してもらいたい または、ワナと同様に殺処分するための設備・機具の貸与をしてもらいたい

No.	市町村名	捕獲の課題	捕獲個体処理の課題	県に対する要望
12	山武市	・個体確認件数に比して、捕獲数が追いついていない。	現状、正規の殺処分をすることには課題はない。	
13	大網白里市	・市で所有しているわなを借用したいという問い合わせが多いため、借用の要望に対して現物の確保が追いつかない。	市民より搬入された個体を県射撃場へ搬入するのは時間を費やすため、その都度搬入することができていないのが現状のため、個体がすぐにたまってしまう。個体搬入可能な施設が増えれば、わなの貸出しの回転率が改善されてくると思う。	個体搬入可能な施設を増設していただければと思う。 個体の搬入に時間を費やさず、こまめに搬入できれば、市民へのわなの貸出しの回転率も改善されると思う。
14	九十九里町	毎年、増加傾向にあり、畑や家屋侵入の被害が増えている。	殺処分場が遠い。	殺処分する個体を回収しに来てもらいたい。
15	芝山町	現状は農作物被害の防止とした捕獲を行っているため、家屋の被害については対応ができていない。	現在は猟友会に依頼し、所有敷地内に埋却してもらっている。 猟友会員への負担が大きいため、ほかの方法での処分を検討している。	家屋侵入に対する補助やマニュアルなどがあればよいと思う。
16	茂原市	捕獲事業の委託を行い、捕獲数を増加させているが、生息数の減少が実感できないため、捕獲以外の方法も活用して被害防止に努めていかないとけない		効率的にアライグマ生息数を減少させるために、捕獲以外の方法があれば情報提供していただきたい
17	一宮町	農作物の周辺にネット等の防御対策をしても土を掘って侵入してくる。また、一般家庭の屋根裏に入込み、棲付いているアライグマ等がいるので、効果的な駆除方法はないか。		空き家等に有害鳥獣の棲家増えてきており、農作物被害のエリアが年々広がっている。箱わなを県より借りているが、不足している。必要な時に10基位、随時借り受けることが出来ないか。
18	睦沢町	動物の数に対して貸出しのわなの数が足りていない。わなの数を増やしてほしいと相談があるが、現状の50基より増やした場合、保管場所がないなどの問題もある。		
19	長南町	捕獲数が一定で別になし	去年から県の管理事業補助金で殺処分器を購入して処理を実施している。	
20	勝浦市			アライグマの習性などを県民に広報等で周知。
21	いすみ市	空き家へ住み着いた場合、所有者への連絡が困難である。		
22	大多喜町	アライグマの生息域拡大に対し、捕獲が追いついていないこと。 また、捕獲わなの数も足りていないこと。	猟友会でしか捕獲個体の処理が出来ないため、1人あたりの個体処理頭数が年々増加していること。	住民向けのアライグマ防除対策方法啓発チラシの作成。
23	館山市	捕獲頭数の推移から、生息数・生息範囲とも拡大していると思われるが、被害の原因をタヌキ・アナグマと区分することが困難で、被害の原因を選択して捕獲する手段が無い。特定外来生物として捕獲圧をかけるにも、アライグマを選択的に捕獲できるワナが無い。		カメの捕食された痕が報告されている。イシガメの生息環境への影響が懸念される。
24	南房総市	イノシシ被害が多いため、アライグマなどの小動物の捕獲圧は上がっていない。しかし、農作物被害はあり捕獲圧の強化が課題である。		
25	鋸南町	毎年被害状況調査を実施しているがアライグマの回答はない。被害の大部分がイノシシ、シカ、サルによるもので、アライグマの被害もあると思うが、上書きされてしまっている。アライグマ単体で対処しようとしている者はいなく、イノシシ等の大型獣を防除する目的で、わな、防護柵を設置している。		
26	君津市	アライグマの捕獲数が年々増加しているため、生息数も増加していることが予想される。県貸出し箱わなについては故障しているものが多い。本市では野生獣管理事業により補助金を申請しているため、交換に応じてもらえない。	処分する際は県（市原射撃場）を利用している。 ただ、最近個人のワナを使用して、捕獲している方が多く、ワナの規格も異なるため、捕獲しても搬入できないことが多い。	
27	富津市		富津市では通常の事務作業と並行して市職員が捕獲を行っている。 そのため、射撃場での処分が負担になっている。	毎年度異なる市町村で小動物に関する説明会を開催してほしい。 (サルの説明会と同様の形。)